



子どもの森の健康診断in宗賀小学校



2018年10月11日

塩尻市宗賀小学校4年生

どんぐりプロジェクト♪ (宗賀地区地域振興協議会)

一般社団法人塩尻市森林公社





宗賀小学校4年生(31名)の皆さんと実施した 「森の健康診断」の様様です。



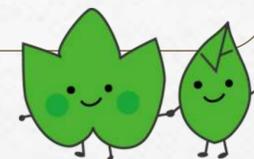
1.学び

木の葉が揺れ、木の香いが漂うなか始まった「健康診断」。
まずは森のお勉強。講師の「森の健康診断出前隊」や、地域の「どんぐりプロジェクト」の
皆さんから、木の種類や森のはたらき、人工林間伐の必要性などについて、紙芝居や写真
を使ってお話をいただきます。
こどもたちは講師のお話を熱心に聞き入ります。知らないことばかり。「人工林って手入れ
が必要なんだね!」「健康な森、不健康な森ってどんな森?」「私たちも健康だと嬉しい。山
も一緒なんだね。」
この森は健康かな!? さあ! みんなで調べてみよう!



2、調査

班ごとに分かれて調査開始。まずは、目を閉じ、耳を澄まして、からだいっぱい森を感じます。なかには斜面に寝転ぶこともの姿も。鳥のさえずりや草木の香り、明るさや木の太さなど、それぞれに感じたことを発表し合います。



次に調査地の様子を調べます。ここで調査道具の登場。道具は身の回りにあるものを有効に使います。山の斜面は分度器にストローを取付けたもので測います。木の高さを測るときには枝や手帳をつかってもします。「面白い〜！」「身近なものでも調査できるんだ。」とみんな興味深々です。自然に生えた木や土を掘って土壌の豊かさも調査します。土壌が豊かだと木もしっかりと育ちます。

「これ、ヒノキの赤ちゃん」「この葉っぱは何かなあ」「すぐに赤い土が出てきた」
みんなで力を合わせて森の様子を観察します。



最後は木の混み具合を調べます。木の本数と太さを一本一本測って記録していきます。測い終わったら「早見表」を使って混み具合の診断です。「木の本数が13本で、木の高さが18mだから、この森は…やや混んでいる！だからちょっと不健康だね」「じゃあ、何本伐ったらちょうど良くなるかな？」みんなすっかり一人前の研究者です。

3、体験



さあ！この森を健康にするお手伝い。ノコギリを使って木を伐倒します。
木を伐るにはまず、「受け口」と「追い口」を作ります。ふだん使ったことのないノコギリに苦戦しながら、一生懸命伐います。
う～ん！なかなか難しい。
でも楽しいな。
木こいになった気分♪ 木を伐るって大変なんだ！



受け口と追い口ができたらロープをかけて、みんなで引っ張って倒します。
「綱引きみたい」「そーれ！ヨイショ！ヨイショ！」力を合わせて！
バキバキバーン！！倒れた！「やった！やった！」
木が倒れるときの迫力が凄い。

間伐したことで、空が開いたね。間伐ってとても大事な作業。これで、日光も当たり、草木が生えて森を健康にしてあげられたかな。



Before

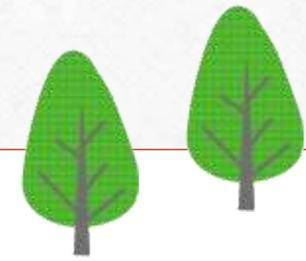
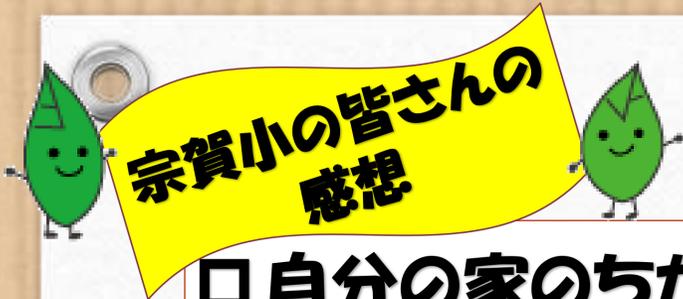


After

みんな山を好きになったかな♪

どんぐりプロジェクトのマスケットだよ

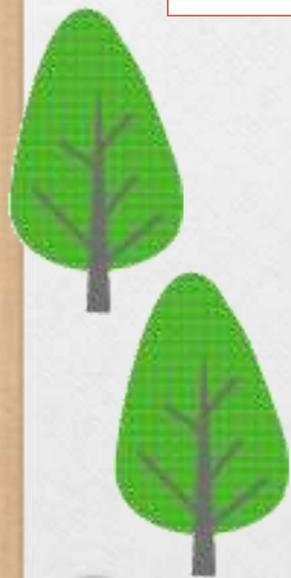




□ 自分の家のちかくの山がこんなにたのしいなんてびっくりした。

□ 木の高さを調べる方法があってびっくりしたし、こんどからその方法を使って木の高さをはかってみたい。木を倒すときのはくいよくが、すごかった。ヒノキをなめてみたらすごくおいしかった。味はぶどうの皮の味がした。

□ 森には興味が全然ありませんでした。でも今日いってみて、とても森って楽しいんだなと思いました。びっくりしたのが、木の太ったしょうこのことです。木の太ったしょうこがこい茶色で、太ったしょうこがとまってしまっているのが、うす茶色。だからこい茶色がせいちょう中。でも、うす茶色の時はせいちょうがとまってしまっている。そのせいは、明かりがさしこんでいないからせいちょうがとまってしまう。だから木をきいたおすのです。



森の健康診断を通して、こどもたちが、山を身近に感じ、山の素晴らしを知り、山に囲まれているこの塩尻をさらに好きになってもらえたら嬉しいです。言葉で山の魅力を伝えることには、限界があります。山に入り、肌で感じ、体験することで、より深く山のことを学習できると感じています。そして、ここでの体験が記憶の中にとどまり、将来へと引き継がれていくことを願っています。

「山を守り、育て、共に生きる」

私たち塩尻市森林公社は、これからもこの活動を続けていきたいと思ひます。

